SHINCLUB 116

(株)ユニホー辰カンパニー　東京都渋谷区渋谷3-8-10　JS渋谷ビル5F　tel/03-3486-1570　fax/03-3486-1450

HOLON Ⅱ　撮影：高山幸三

今月のトーク/monthly talk

マスターアーキテクト

写真は、今月 Front Line にお迎えした、團紀彦氏設計による神宮前のテナントビルです。昨年いったん延期された計画でしたが、別のオーナーの物件として、この度弊社が施工させていただきました。この神宮前の一帯では、昨年来、施工開始前に計画が流れ、工事が中断したと思われる空き地があちこちに見られます。が、このように建物が本来の役目を果たすときが訪れるのは、喜ばしい光景です。

團紀彦氏は、2005 年の愛知万博において、2 人の別の建築家とともに初期の会場構想作りに関わることになりましたが、会場である海上の森（かいしょのもり）の保全を主張し、旧来の国の事業のあり方を厳しく批判しました。ご存知の方も多いことでしょう。

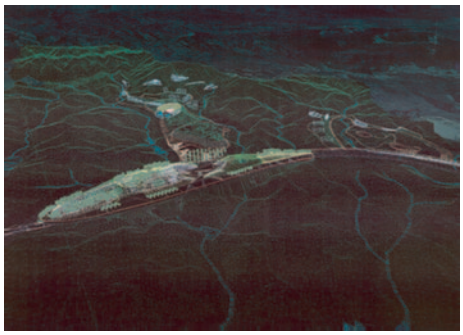
「最初の計画の要請が、山を造成した上に計画を立てるというものだったので、『それは第一歩から間違っているのではないか』というごく当たり前のことを主張しただけでした。何も考えずに山にメスを入れて白いキャンバスの上に建物をつくる。基本的にそんなやり方がまかり通ってきたわけです。『環境をテーマにする展覧会は、そういう古い考え方を根本的に変えることが必要なのではないか』と提案したのですが、当時の建設省はがんとして動かない。そこで我々は造成をやらなくても同じ効果を得る方法を提案したのです」と團氏。

結局、海上の森造成計画は中止になりましたが、團氏はプロジェクトからははずされることになってしまいました。しかし、その模様を当時ジャーナリストとして双方に取材していた田中康夫氏が、長野県知事に就任した折、長野県の環境を守るために「マスターアーキテクト制度」を導入し、「第 1 号に」と、團氏に依頼してきました。

「マスターアーキテクト」は都市や巨大建造物のデザインを、周辺環境との景観的な調和を図りながら統括的に監修する専門家のことで、欧米では盛んに行われている方式です。（フランス・アルベールビルの都市整備における事例が有名）

長野県で田中知事は大幅に県の赤字を縮小し、團氏も建築設計活動のかたわら、土木と建築の融合や新町屋論など建築と環境の関係性の改善に関する主導的な提言を行いました。

「建てないことも考えるのが建築家。でもそれじゃ設計料はもらえませんが」と笑う團氏。時代は民主党政権に変わり、前原国土交通大臣の、「八ッ場ダム建設工事停止」措置など、公共工事の考え方も大きな転換期を迎えています。今こそ「マスターアーキテクト」が、求められている力を発揮する時期に来ているのではないでしょうか。



EXPO2005 国際博覧会
原案鳥瞰図 by 團紀彦

シアンズテラス西荻窪

豊かな緑と採光・通風に優れた、戸建感覚のメゾネットマンション

「シアンズテラス」は「お客様一人一人の要望に応えお客が心から満足できる『庵』のような住まいの創造」をモットーに西洋ハウジングが展開するマンションブランドである。

今回は「西荻北」という良好な住環境を得て、メゾネット形式の落ち着いた低層住宅を実現した。

建物は敷地入口のエントランスにオートロックを設けているので、敷地内は居住者だけの緑あふれる安全なオープンスペースである。全体で3棟構成の建物の中央にシンボルツリー（ドイツトウヒ）を配し、季節の花々が咲く路地空間が連なっている。一般のマンションのように共用廊下からドアを開けて室内に入るのではなく、敷地内に独立して各住戸の玄関を設けている。夜遅い帰宅時でも、優しい明かりの中、小径を通って我が家に辿り着くーそんな温かみのあるストーリーを入居者に感じ取っていただけたら、と思う。

各住戸は「地下1階＋1階」「2階＋3階」という2層の構成により、一般的なワンフロアマンションより奥行きが短く、採光と通風に優れた住環境造りが可能となる。上下階でパブリックスペースとプライベートスペースを自在に使い分けることもできる。通常のマンションでは得られない「階段」は家族の暮らしの中でゆとりのある空間となることだろう。

弊社ではここ数年コーポラティブハウスも手がけており、生活にこだわりのある購入層の分析も進んでいる。一般購入層への新たなライフスタイルへの提示へ、今後もフィードバックさせていく方針だ。

西洋ハウジング　開発部企画担当　　真崎伸一氏談

コンクリートの躯体としての魅力を維持しながら、まったくの打ち放しよりは親しみのある表情を心がけた。標準的なマンションのクォリティを確保しつつ、さらに周辺環境に配慮したプランを各戸で提供している。西洋ハウジングはもともと造園設計に力を入れている歴史があり、今回は通常の2倍の種類の木々が持ち込まれている。作庭家の髙﨑康隆氏のデザインにより、四季折々の花々を入居者に楽しんでいただけることだろう。

ケイ・吉嶋プロジェクト・パーティ　設計室チーフ　黒田敏郎氏談

お問い合わせ先
TEL：0120-884-048
www.nishi-ogi.com

所在地：杉並区西荻北4-5-14
交通　：JR中央線西荻窪駅　徒歩9分
総戸数：23戸
売主　：西洋ハウジング
設計監理：
　ケイ・吉嶋プロジェクト・パーティ

構造：RC造
規模：地下1階　地上3階
用途：長屋
施工担当：岩本、村田、綿貫
竣工：2009年9月
撮影：間瀬憲隆／スタジオ・ミュー

①エントランス全景。前面道路に向かって右側に機械式駐車場9台分＋平置き1台分②コンクリート杉本実枠のエントランスゲート③敷地内は居住者だけの安全なスペース④エントランスから、各戸の玄関へ連なるガーデンコリドー⑤夜間はやさしい明かりが植栽を照らし出す。⑥奥行きのあるリビングダイニング

HOLON Ⅱ

ガラスファサードの小さなテナントビル

敷地は、表参道と明治通り、R246の交錯する場所に位置し、昔から商業地域と住居地域が混在する良さが残る地域である。屋根は、北側斜線の影響を受けてねじれているが、シンプルな表現になっている。

住居のスケール感をもった小さな商業スペースであり、周辺の環境に自然に溶け込んだものとなった。

（團紀彦氏談）

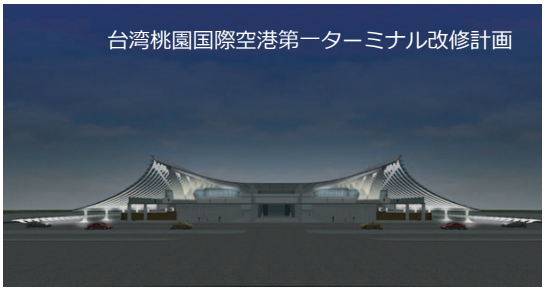
構造：S造
規模：地下1階　地上２階
用途：店舗
設計：團紀彦建築設計事務所
施工担当：佐須
竣工：2009年10月
撮影：①團紀彦建築設計事務所②③高山幸三

①北側全景　②2階店舗スペース　③地下1階店舗スペース

土木と建築の融合

團紀彦建築設計事務所　代表取締役／　團　紀彦

photo: Toshio Mita



台湾桃園国際空港第一ターミナル改修計画

Norihiko Dan

―愛知万博の頃に比べて、環境に対する社会の意識が変わってきました。
團：建築家は、誤解を受けやすい仕事だと思います。ただ言われるがまま設計して、建物を建てることで「環境を破壊することに加担している、町並みを壊す」と見られがちです。事実、そのシンボルになっていた時期がありました。中国が今、まさにそういう時代です。国威高揚、あるいは「どうせやるのなら、美しいものを」ということを建築家は期待されるのです。しかし、「どうせやるのであれば、ものを建てなくてもいい環境を」という遺伝子が、もともと日本人にはあったはずです。

公共工事では、「この建物を建てる目的はいったい何なのか」というはっきりしたビジョンを持っている建築家が必要です。莫大な費用をかけるのに、「(造成した) キャンバスの上にきれいな絵を描いてくれ」という提案に対し、キャンバスそのものに対する拒否権を発動できるような建築家がもっといなくてはなりません。環境問題の活動家や学者より、実際に自然環境にメスを持つ建築家の方が環境に対して効果的な仕事をすぐにできるものです。
もう一つは土木ですね。土木に携わる人間が「造成をしなくても、建築周辺を工夫して環境に配慮したものができる」と社会に提案していくべきで、それらが建築家の職能だと思いますね。
愛知万博の「海上の森」で政府がやったことは、「とりあえずやり易いように山を切り拓く」ということで、長年の分業化と入札の制度により、それが当たり前という仕組みができあがってしまっているのです。戦後、必要とされた緊急性の高い住宅開発促進策が、その後も当たり前の方法論になってしまった点が問題です。
それから感じたのは、建築家のデザインが、社会から離れて、商業的なシンボルになってしまったということです。例えば、愛知万博の計画の調整過程で「山の中だろうが、ガラスの建築を建てれば、建蔽率 70%超えても、緑が見えて、開発のイメージがやわらぐ」という意見も出たのですが、それは環境を破壊する免罪符にはなりません。建物の建蔽率が 5%くらいでないと、本当は緑のイメージは守られません。商業地域並みの建蔽率を持ち出すためのことでしょうが、建築・デザインの先端の脆弱さ、制度の持っている過ちをいろんな意味で映し出すプロセスだったと思い返されます。

―建築と土木は切り離せない問題ですね。團さんは都市工学科で教鞭を取られており、都市と景観にはお詳しいですが、日本では海外に比べてまだまだ遅れているしょうか。
團：そうですね。でも土木と建築をもっと融合させなくてはならないという動きは高まってきましたね。東大でも建築家の内藤廣さんが土木学科で教鞭を取るようになっています。非常に大きなことだと思いますね。土木というのは、100%官の管轄で、「景観を守る」ということは昔はほとんど省みられてこなかったのです。トンネル一つ、道路一つにしても、デザイン教育、それを担う人を育成しないとだめです。

―先ごろの東京オリンピックの招致は、「日本は市民の盛り上がりが欠ける」という点がマイナス評価につながりましたが。
團：アジアの急成長、例えば、中国が北京オリンピックのように、一つのイベントを契機にして地域開発を進めていくのは、それはそれで重要な意味もあるけれど、東京の今後を考えた場合、「またあの 1960 年代のやり方はないだろう」という実感を持つ市民が多かったのは事実でしょう。これから東京はどちらに行くのか、オリンピック以降の開発に対して新しい考え方が必要です。

―今後のお仕事について、お聞かせください。台湾でのお仕事が 2 つあるようですね。
團：2 つの国際コンペで 1 位を取りました。「日月潭風景管理所及び修景計画」と「CKS 国際空港 (台湾桃園国際空港) 第一ターミナル」です。台湾は公共工事がすべてコンペで行われています。まだ 3 割という日本は文明国とはいえませんね。7 割は設計入札で決めていて、それも一番安い札を入れたところ、設計士が何人以上いなければだめ、など結局大手事務所にいくようになっている。コンペも審査員自体が問題だったりします。審査委員長もきちんとした人を選出して、審査経緯も公開して行くべきです。

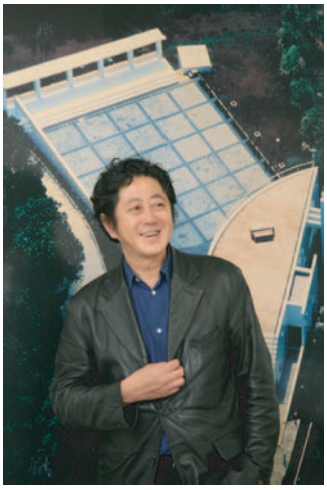
―本日はありがとうございました。

「土木と建築をもっと融合させて、景観を守っていかなくてはなりません」

團　紀彦

1955 年　神奈川県生まれ
1979 年　東京大学工学部建築学科卒業。1982 年　東京大学大学院修了（槙文彦研究室）
1984 年　米国イェール大学建築学部大学院修了。
1986 年　團紀彦建築設計事務所設立
東京工業大学工学部建築学科専任講師、慶応大学藤沢キャンパス非常勤講師、昭和女子大学非常勤講師など歴任。2006 年より、東京大学都市工学科講師

1987 年第 1 回吉岡賞受賞。1995 年新日本建築家教会 JIA 新人賞受賞。1999 年日本建築学会賞業績賞受賞。2002 年土木学会デザイン賞優秀賞受賞。2003 年" NEW TAIWAN by design" 国際コンペ 1 等。2005 年 IOC/IAKS AWARD 2005,Silver Medal。2008 年 ARCASIA AWARDS 2007,2008 Gold Medal , ほか受賞多数。



父君である團伊玖磨氏が生前作曲活動を行っていた「八丈島のアトリエ」（紀彦氏設計）の写真をバックに。毎年父君の 5 月の命日には記念コンサートが開かれる。
海好きの紀彦氏は、普段から八丈島で魚つきを楽しむことも多い。
http://www.dan-n.co.jp
撮影：アック東京

メンテ魂 その後、お住まいはいかがですか

第 23 回　Kh

所在地：目黒区
構造：RC 造
規模：地上 2 階
用途：専用住宅
設計：長田直之／ ICU

竣工：2006 年 2 月

採光と通風の機能を生かした三角形の美しいフォルムの住宅です。１３坪の狭小敷地に、9 坪の平面が 2 層あり、先端部は、白い中庭になっています。この中庭が、反射した光を室内の奥深くまで届けており、1 階部分は、寝室と収納、水廻り、２階部分は、キッチン、収納とリビングとなっています。プライバシーに配慮して、南面は開口部がほとんどありませんが、先端部に開けられた開口を通して、通風・採光だけでなく、近所の公園のトチの木も望める、快適な空間となっています。

―今回は、第一建築部長の窪田とお伺いしました。コンパクトでシンプルなデザインのお宅ですが、当初、K 様としては設計に対して、どんなご要望を出されましたか。

K 様：小さい家ながら狭さを感じさせないようにということと、セキュリティを重視して欲しいことをお願いしました。

―ペンダントタイプの照明はなく、必要なコーナーに天井からスポットが当たり、部屋の隅にスタンドがあるくらいで、ほんとに無駄なものがない空間ですね。ところで今回のメンテナンスは、どちらの箇所ですか。

窪田：1 階玄関のコンシールドタイプのドアのドアクローザーのアームが外れてしまったための調整と、2 階の木製サッシの押し縁の隙間からの水浸みです。木製サッシは、表側から三角シールを施し、様子を見ています。

―最近のゲリラ豪雨はすごいですからね。

窪田：これまでも、リビングの大型サッシで水浸みがあり、木製サッシには水返しも検討してもいいかもしれません。コンクリートと木の相性を考えて小庇など、収まりに工夫することはありますね。

―温熱環境はいかがですか。

K 様：夏は暑さが厳しいですね。

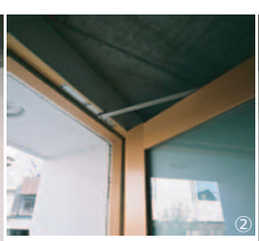
窪田：内装は、GL にひる石の白モルタル仕上げで、設計の長田氏がほかの現場でもよく採用されていますが、吸放湿性があります。そのほかの仕上げはベニヤとなっています。ミニマムな空間でコストを考えられています。

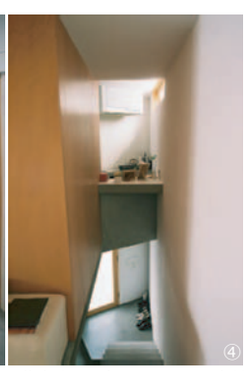
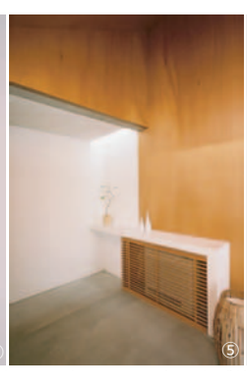
K 様：エアコン前のルーバーは、最初は楕円形の穴が 3 つ開いているものでしたが、エアコンが効かなくなるので、この形にしてもらいました。

窪田：このコーナーもですが、棚は製作家具の代わりにコンクリートで極力作っています。キッチンもコンクリートの上にステンレスを貼りました。

K 様:1 階のドライエリアには、木戸を設けてありますが、2 重の格子にして、視線をはずし、よりセキュリティに配慮しました。

―ミニマムな空間としても、なごみのあるスペースですね。本日はありがとうございました。



①1 階の玄関。コンシールドタイプのドア②ドア上部。ドアクローザーのアームが外れた③1 階寝室。三角コーナーの先端にも通気のために丸い穴が数個、下部に開けられている。猫が入ってくるので、棒が各穴に立てられた。左側の格子戸は二重になっており、鍵も 2 つ付いている。サッシは網戸と 2 枚組④階段上部からキッチンを望む。天板はコンクリート⑤2 階エアコンコーナー。コンクリートの天板の棚の下のルーバー奥にエアコンを収めている。ひる石の白セメントと木の色がよく合う⑥ダイニングコーナー。こちらの窓のサッシの下部の押し縁から水が浸みる。正面の家の白っぽい壁が光を反射し、北側にもかかわらずほどよい明るさが確保されている

TOPICS/INFORMATION

「創立10周年を記念に、まな板と絵馬をお送りしました」

昨年ロッカールームの工事をさせていただいた筑波大学付属駒場中学・高校で、大きな銀杏の樹を伐採する機会がありました。学校創立時からある銀杏の樹と伺い、このまま廃棄するのも忍びなく、一部を乾燥保存し、先日、記念にまな板と絵馬を加工・製作いたしました。教職員の皆様と、この春卒業される生徒の皆様 176 名に、それぞれ贈らせていただきました。

銀杏のまな板は殺菌効果があると言われています。絵馬にはメッセージを入れていただき、母校の思い出にしていただければと存じます。現在の 3 年生が入学されたときは、まだ隆々と生い茂っていた銀杏の樹。夏の暑い最中は涼しい木陰を提供し、秋には黄金色のじゅうたんを校内に彩った、そんな思い出の銀杏のかけらに先生のお言葉を記していただければ、きっと生徒さんの心に残ることでしょう。弊社創立記念日に合わせて、日ごろお世話になっている方々にも送らせていただきました。

（ユニホー辰カンパニー　社長　森村和男）

まな板、絵馬には、それぞれ「辰」の焼印が入っています。

編集後記

・永山祐子氏設計の「南青山38 5（URBAN PREM MINAMIAOYAMA)」が、オランダの建築雑誌「MARK　Another Architecture NO.19 April/May 09」に掲載されています。ぜひご覧ください。NO.14に「spread」（等々力集合住宅）も紹介されていました。

(株)ユニホー辰カンパニー通信　Vol.116　発行日　2009年11月10日　編集人：松村典子　発行人：森村和男
東京都渋谷区渋谷3-8-10　TEL:03-3486-1570 FAX:03-3486-1450　E-mail：daihyo@esna.co.jp　URL :htt p ://www.esna.co.jp